

なごみだより NO.17

発行/社会福祉法人なごみ福祉会 なごみだより編集委員会 〒214-0003 川崎市多摩区稲田堤3-9-2 ●TEL 044-944-2022 ●FAX 044-945-2570



巻頭
コラム

保育園建設反対の声と むきあって学んだこと

理事長 栗田 怜子

▲太子堂なごみ保育園

contents

今号のテーマ

「こどもの声がしない街の将来は？」

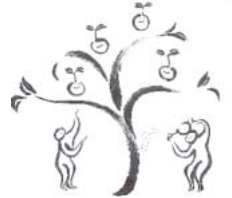
巻頭コラム

平成27年度版厚生労働白書より

ピックアップ「地域と一緒に子育て」

事業部ピックス

花笑みの会会員募集



なごみだより編集委員会 本部/市村護郎(副理事長) 保育事業部/菅原依子(なごみ保育園園長) せせらぎ沿線事業部/鶴飼裕之(あゆ工房) 地域療育事業部/木下さつき(療育相談でんでん虫) 夢花事業部/寺内 建(デザイナー/ドバイザー) ●17号より、各事業部のメンバーで構成する「編集委員会」を発足しました。発行まで4回の編集会議を持ち、今号の発行にこぎ着けました。お読みいただいた感想お待ちしております。



「なごみ福祉」で検索 www.nagomi-fukushikai.jp

はじめに

太子堂なごみ保育園は、2011年(平成23年)4月1日定員107名で開所しました。

無事に開所するまでには、地域にお住まいの方々を対象に約10回の「近隣説明会」を開催し協議を重ねました。

第一回めの近隣説明会では、大声で怒鳴る人もいて、私は、本当に驚き先行の困難さを覚悟したことでした。しかし、会を重ねる事に少しずつ少しずつ互いの思いが伝わり合っていくことができたように感じました。

この経緯が、2014年(平成24年)10月29日に、NHKの放送番組クローズアップ現代「子どもって迷惑～急増する保育園と住民のトラブル～」という特集の中の一部にとりあげられました。

又、「平成27年版厚生労働省白書」にもひとつの事例として記載されました。

上記いづれも、成功例としてとりあげて頂きましたが私なりにもう一度振りかえりをしてみようと思います。

地域のみな様に理解して頂けたと思うプチ自慢

一、「保育園建設近隣説明会」には毎回、園長、保育士事務担当者の計5名から6名が参加し、顔の見える関係を大切にしたこと。

一、「KR建築研究所」の建築士も毎回参加し、丁寧な説明を行ったこと。そして「子どもをのびのび遊ばせ安全に暮らす」ことと「地域住民の方にできるだけ負担を掛けないようにする」ことの困難な両立を可能な



▲お昼寝前の時間

限り、追求しようとしたこと。

※建物の半分を半地下にし少しでも建物を低く抑えた。
一、建築予定地の太子堂2丁目は、木造の古びた住宅が多く、道中も狭く、ブロック塀も多く、災害時には危険な場所だと思い、私たちは、「地域の防災拠点のひとつになり得る保育園」にしようとして提案したこと。

※建物の地下に、災害時用貯水池を設置した。

※近隣の家々と、災害時とおり抜け用のドアを設置した。

一、保育園も、町内会に加入し、地域の行事や地域の避難訓練にも積極的に参加していく。保育園に通う子どもたちのほとんどがこの町内会の子どもたちであり地域の中での子育ての具現化であること。

一、「社会福祉法人なごみ福祉会」は、なかなか良



▲栗田理事長

い法人であると分かって頂いたこと。地域住民の方と法人関係者とお知り合いの方がいたのではないかしら？

一、開設後一年して、地域住民の方に、「私たちはみなさまとの約束は守っていますが、何かトラブルはありますか？」とこちらから声をかけ、お集まりを頂いた。※7名の方が参加して下さり、なかには、厳しい意見を頂いた方からもおほめの言葉を頂戴し、うれしいひとときでした。

一、入園する保護者の方々には「車の登降園は禁止であること」を守って頂いています。

一、「近隣説明会」に毎回保育士も参加したことから、

つらくても顔を合わせてむきあい、相手の意見を聞くこと。又、自分たちの保育に対する情熱をきちんと伝えることの大切さを学ばせて頂きました。先生たちの地域のみな様への感謝が子供たちにも伝わって、それが、散歩の時の子どもたちの「おはようございます」「こんにちは」の明るいごあいさつに結実していると思います。



▲太子堂なごみ保育園の正面外観

子どもの声は騒音か？

東京都環境確保条例の改正について

「東京都の環境確保条例136条は「何人も」「定められた規制基準を超える騒音等を発生させてはならない」と定めています。狭い都心で多くの人たちが共存するためには、時としてお互いの利益を調整する必要があるというのは、理解できます。しかし第136条の規定は「何人」に対しても適用されるので、保育園や公園で子供が発する声にも適用されることとなります。規制基準に違反することになれば、勧告や命令の対象となってしまいます。

太子堂なごみ保育園で、公園に子どもたちを散歩に連れて行った時に近隣の方の通報でおまわりさんが、公園にかけつけて、職員の名前、住所、年齢を聞かれるという事がありました。こんなことでは、職員だって萎縮してしまい、子どもたちをのびのび遊ばせることなどできなくなってしまいます。規制基準を遵守するように子どもの声を抑制することは、心身の発達段階にある子どもにとってストレスになり、発達上好ましくありません。児童福祉法（昭和22年）の「すべて国民は、児童が心身ともに健やかに育成されるよう努めなければならない」に相反します。

2015年（H25）4月から、東京都は、環境確保条例の一部を改正し、就学前の子どもの声は、騒音規制から除外するようになりました。



▲みんなで歌の時間

東日本大震災のこと

2011年（平成23年）3月11日（金）に、東北地方太平洋沖地震と津波、そして、福島第一原子力発電所の事故が起きました。地震発生は、14時46分でした。おりしも太子堂なごみ保育園の建物の引き渡しの日でした。関東は、震度5弱ということでしたが、その恐ろしさは、今も忘れられません。

保育園は、お迎えが来る最後の一人まで責任を持ちます。電車が停まったので、数人がお迎えが来ず、私たちとお泊りをしました。幸い、電気もガスも問題なかったので、子どもたちの不安もなく、暖かくしてお迎えを待ちました。保護者のみな様は、夜どおし歩いて迎えに来られました。みなさん、涙なみだでお迎えに来られましたが、子どもたちの方は、楽しくお泊り会になって「また泊まりたい」とのん気なことでした。

「子どもたちの生命を守りぬく」私たちは、職員全員「救命救急士」の資格をもち、毎月避難訓練を実施し、防災訓練を実施しています。とっさの判断が生死を分けることもあります。職員一人ひとりが判断できるよう、危機意識をもち、研修を重ねています。

又、地域のみなさまとの協力関係を強めてゆくようつながりを大切に参ります。



▲太子堂なごみ保育園のプール側から

終わりに

太子堂2丁目の保育園建設に応募しようと、まずは、地域探検と近隣を歩きました。道幅が狭く、ぐるぐる歩いているとすぐに道に迷ってしまいます。ところどころによく手入れのされた小さな公園があるのに感心しました。「めだか公園」とか名前もかわいい。

私の頭の中では、こんな迷路みたいな道、子どもたちを少人数連れて散歩したら楽しいだろうなと夢をもちました。

又、地震や火事の時、赤ちゃんや幼い子どもたちを守るには、丈夫な建物を建て、災害に強い保育園づくりをしたいと強く思いました。世田谷区の公募に応募したのは、2009年の12月でした。数日保育園に寝泊まりして、準備をした日のことが時々思い出されます。

これからも、たくさんの人の願いや思いをつなげて「良い保育」を追求してゆきたいと思います。

（文・栗田 怜子）

労働白書に太子堂なごみ保育園が 都市部の保育所設置をめぐる状況と 対応例として掲載されました

以下にその全文を引用してご紹介します

都市部を中心に、保育所への入所を希望しながらも入れない「待機児童」は依然多く、その数は2014年（平成26年）4月現在で約2万人に上り、そのうち約8000人が東京都に存在する。

現在、この待機児童の解消等のため、保育所の新規設置・拡充や保育士の養成、小規模保育を行う事業者への助成など、様々な施策が講じられ、保育の充実が図られている。その一方で、新たに保育所が設置されるように

なった住宅地等において、住民から「子どもの声がうるさい」という苦情が寄せられるようになるなど、地域との摩擦が生じるようなケースも発生しており、実際に防音措置を講ずる保育所などもでてきている。

・・・略・・・このような中、都市部の自治体が、保育所確保に苦心しつつも、建設計画段階から、地域と地道に相互理解を深める対話を重ね、設計・運営に至ったケースもある。そのような取組みの事例として、世田谷区太子堂の「太子堂なごみ保育園」を取り上げる。

地域で子どもを育てる～世田谷区太子堂～

ここは世田谷区の太子堂地区。

「子どもの声のない街に将来はありません」

住民参加型のまちづくりの中心である太子堂2.3丁目地区まちづくり協議会の梅津政之助代表と、この地区に保育園を開設した社会福祉法人なごみ福祉会の栗田怜子統括園長は異口同音に語る。



ところが、この地区に保育園の建設が計画された当初、この2人は対立する立場にあったという。梅津さんをはじめとする地域住民は、この用地を防災拠点として公園とすることを区に要望していたからだ。また保育所ができれば住宅街の静かな環境が乱されるのではないかと不安も住民の間に募った。

しかし、梅津さんは区などと話すうちに、地域で子どもを育てる大切さを感じるようになり、住民代表として地域が保育所建設を何とか受け入れられないか考えた。区や保育所運営事業者に対して地域住民の声をよく聞くように要望しつつ、地域住民には意見や不安を正直に話すように呼びかけた。その後1年弱の間、10回を超える近隣住民説明会が行われた。

「対立は第1歩、話し合うことが創造的解決策を生む」

最初は説明会で怒鳴っていた住民が、説明会を重ねることでお互いの立場を徐々に理解するようになり、最後は、街を案内しながら園児のお散歩ルートを提案してくれる程までになったという。

栗田さんは、地域とともに運営できる園の設置を目指す立場から、近隣住民説明会を通じて地域住民の意見や不安などを真剣に受け止め、子育てにとっても大切な地域・住民とのつながりを大事にしていった。住民の様々な意見を取り入れながら、保育園を作り上げていった。そして、子どもの声の近隣への影響を考えながら、窓の配置など構図面で、できる限り工夫もした。

こうして生まれた「太子堂なごみ保育園」

「親ができる子育ては良くて1割、残り9割は地域や社会が育てていくもの。」そんな意識が地域にも芽生えたのではないかと、梅津さんと栗田さんは感じている。

今では、園児がお散歩の途中で、近隣住民のご自宅のトイレを借りることができるまで、保育園が地域に溶け込み、住民は園児達を支えている。

また、ご自宅の池に園児がカエルを見に来るようになり子どもたちから「カエルのおじさ〜ん」と呼ばれるようになったと笑顔で話す梅津さん。

さらに、園児をはじめ子ども達は、近所のお祭りでも欠かせない存在となっている。

お互いの顔を見ながら、時間と手間を惜しまず、率直に話し合うこと。

「太子堂なごみ保育園」の誕生には、近隣との関係が希薄になりつつある時代の流れの中で、地域住民とのつながりを育み、そのつながりの中で子どもを産み育てていくにはどうしたらよいかを考える上で、大切なヒントが隠されているのではないだろうか。





pick
up!
今号の

なごみ保育園の 地域と一緒に子育て実践



▲なごみ保育園の獅子舞

この獅子舞は

なごみ保育園

この獅子舞は、地元菅に伝わる伝統芸能です。源頼朝の家臣だったこの地方の領主稲毛三郎重成が、薬師堂を建立した際に子どもたちに舞わせたのが始めとされているそうです。



▲ポーズを決める獅子舞

800年以上の歴史があり神奈川県文化財にも指定されています。

なごみ保育園では、この伝統芸能の獅子舞に開園当初より30数年取り組んできました。

理事の安藤欣也さんの熱心なご指導と手作りの会『ありんこ』さん製作の衣装、職員手作りの獅子頭。

なごみ保育園の子どもたちは、0歳の時からちょっと怖くてドキドキしながらも、職員の舞う迫力ある獅子舞に親しみ憧れて成長していきます。今では、この獅子舞が保育園の



▲こどもに獅子頭をつける安藤欣也さん

中でも大切な伝統芸能になっています。

菅地区社会福祉のつどいにも毎年参加し地域の方々にも披露しています。

なごみ保育園 菅原 依子

地域と一緒に子育て

北鳥山なごみ保育園

地域の一員として「挨拶」を大切にしています。散歩でお会いした時に元気な声での挨拶。「地域の一員として愛される子どもであって欲しい」の願いです。地域交流として、松葉通り団地の皆さんと野菜の苗植えをして、秋のお楽しみ会では一緒に歌ったり、遊んだり楽しく過ごしていました。

地域子育て支援としては、子育て中のママ、パパを始め初めての出産される方に利用して頂き、時には保育園の子どもたちと一緒に手遊びや歌や運動遊びをしています。12月に



▲北鳥山のこどもたち

は人形劇観賞をしました。人形劇のみならずヴァイオリン・ピアノ・歌のミニコンサートなど盛りだくさん。

「1歳もならないわが子が泣きもせず見ている姿には驚きました。本当にありがとうございました。」と参加した方からのお礼の言葉。

最近では「子どもの声がうるさい」と言われていたご近所の方からも温かく穏やかな言葉も頂くようになりました。

『共に生き共に育つ』地域との共存を大切に馴染んでいきたいものです。

北鳥山なごみ保育園 相馬一恵

事業部トピックス

せせらぎ沿線事業部

多摩川あゆ工房では、開所以来20数年おこなってきた焼き菓子作業を拡大し、焼き菓子分場を立ち上げる事となりました。材料にこだわり味を改良することで「おいしい」と好評。リピーターも増えました。

「あゆクリーンサービス」に続く第2分場は「焼き菓子工房レゼル(仮称)」で場所は多摩区登戸1027です。就労継続B型事業として、より利用者の方が作業しやすくなります。コンビニエンスストアの跡地なので、冷蔵庫などはそのまま使用。作業台は洋菓子「モンマルトル」のオーナー様より寄付していただきました。皆様のご厚意に応えられるよう、これからもおいしい焼き菓子を作ってまいりますので、応援よろしくをお願いします。



▲あゆ工房の調理作業

夢花事業部



▲夢花事業部の生活ホーム建築現場

夢花事業部では、消防法の改正によるスプリンクラー設置義務化に対応した生活ホームを建築中です。このホームは鉄骨2階建ての2ユニットで賃貸する予定になっています。なお、建設用地が傾斜地になっているため、隣接道路面からのアプローチ階段部分に電動階段昇降機を設置。利用者の方の負担を軽減します。

完成は2016年4月の予定で既存の2ユニットを移動します。

今後も消防設備未設置のホームの改装に取り組み、利用者の方がより暮らしやすい環境を作っていきたいと願っています。

地域療育事業部

でんでん虫の活動は大きく分けると、①外来での療育 ②学校・施設支援 ③相談事業の3つになります。この3つはそれぞれ関わりあって“一人”の支援に繋がっていきます。そのために大切なのが、地域の様々な事業所との連携と一人ひとりの支援を選択するための情報を共有することです。でんでん虫では、平成23年度より宮前区の自立支援協議会児童専門委員会に参加し、児童期の年齢ごとに必要な情報をきめ細かく届けるための取り組みとして、学校や地域向け講座の開催、情報紙「宮前ふれあいJr.」の発行を行っています。このような取り組みは一度に大きな成果を期待するものではありませんが、積み重ねてきたことで確実に“顔の見える関係”が増え手札が増えてきたことを実感しています。



▲毎年、高津小学校ふれあいコンサートに地域活動支援センターアルデンテの皆さんと出演しています

なごみ福祉会の活動は花笑の会のみなさまのご支援に支えられています

今年も、100万円のご支援をいただきました。
障害者施設「ここから」の事業費補填に
使わせていただきました。ありがとうございました。

なごみ福祉会理事長・栗田怜子

はなえみ
花笑の会
会員募集

なごみ福祉会のサポーター

花笑の会は、なごみ福祉会の障害があってもなくても、障害の種別を問わず誰もが地域で当たり前の生活をするとの理念に賛同し発足しました後援会です。法人内の事業が円滑に運営できるように支援をしたいと考えて活動しています。

活動内容は

- ・広く会員を募り、会費を納めて頂くこと
- ・年に2回バザーを開催していますが、提供品の献品をお願いすること
- ・バザーに足を運んで当日お買い上げいただくこと
- ・年数回行っている（きょうされん）物品販売のご協力をいただくこと等

当後援会は皆様のご協力なしには、何もできません。

資金作りのご協力とともに、会の運営に携わっていただける方も募っています。

どうぞよろしく願いいたします。

花笑の会 会長 志岐チエ子

後援会
会費

【年会費】 個人 一口 2,000円 団体 一口 5,000円
会費は一年更新 入会・退会は自由です。 *口数に上限はありません

会費
振込先

【銀行ご利用の場合】
川崎信用金庫 長沢支店 (普) 0185019 花笑みの会会長志岐チエ子
【郵便局ご利用の場合】
同封の振込用紙をお使い頂くか、下記の振替口座までご入金下さい
振替番号 00220-7-71044 加入者名 花笑の会
【連絡先】
川崎市多摩区南生田4-12-5 夢花工房ぽぱい方 044-976-6481

【花笑の会の会員には下記の特典がございます】

特典1. なごみだよりをお届けします 特典2. なごみ福祉会が主催する各種イベントにご参加頂けます
特典3. なごみ福祉会・夢花工房の木製品などが10%OFF *一部除外品あり、イベント等の割引時は適用外